

(3) 高齢者の世代間交流

ア 約6割の高齢者が若い世代との交流に参加したいと考えている

高齢者の若い世代との交流への参加意向についてみると、参加したいと考える人の割合（「積極的に参加したい」、「できるかぎり参加したい」と回答した人の合計）は平成25（2013）年で59.9%となっており、10年前（15（2003）年）に比べると7.2ポイント増加している（図1-2-5-6）。

イ 世代間交流を促進するための必要条件は「交流機会の設定」

高齢者が世代間の交流を促進するために必要だと思うことをみると、「交流機会の設定」（31.7%）が最も多く、次いで「高齢者が参加しやすくするための交通機関の整備など」（28.9%）となっている（図1-2-5-7）。

6 高齢者の生活環境

(1) 高齢者の住まい

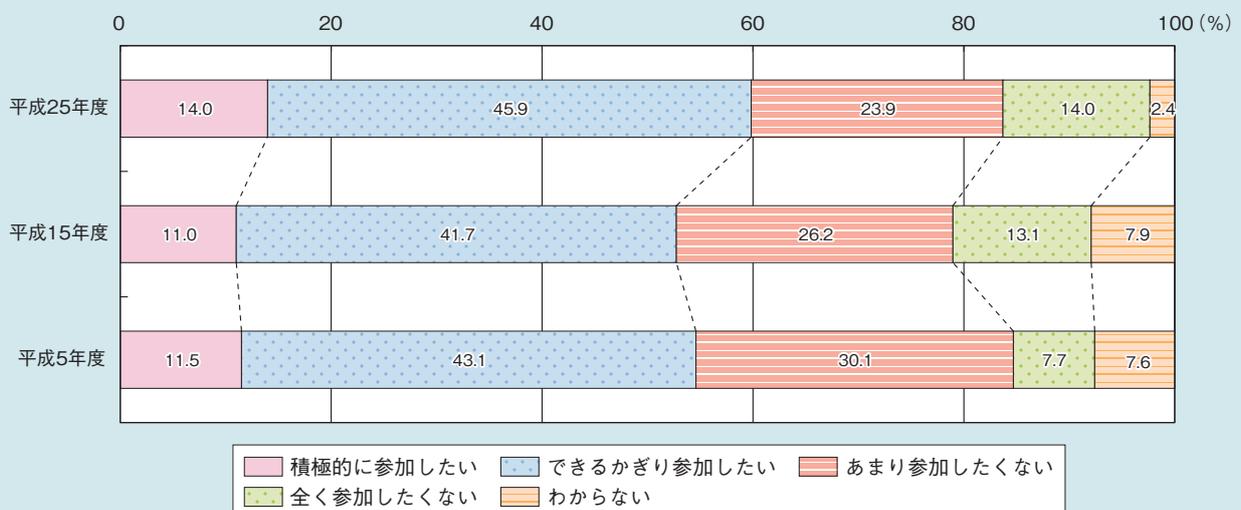
ア 高齢者のいる主世帯の8割以上が持ち家に居住している

高齢者のいる主世帯について、住宅所有の状況をみると、持ち家が82.7%と最も多い。ただし、世帯別にみると、高齢者単身主世帯の持ち家の割合は65.6%となり、高齢者のいる主世帯総数に比べ持ち家の割合が低い（図1-2-6-1）。

イ 高齢者は家庭内事故が多く、最も多い事故時の場所は「居室」

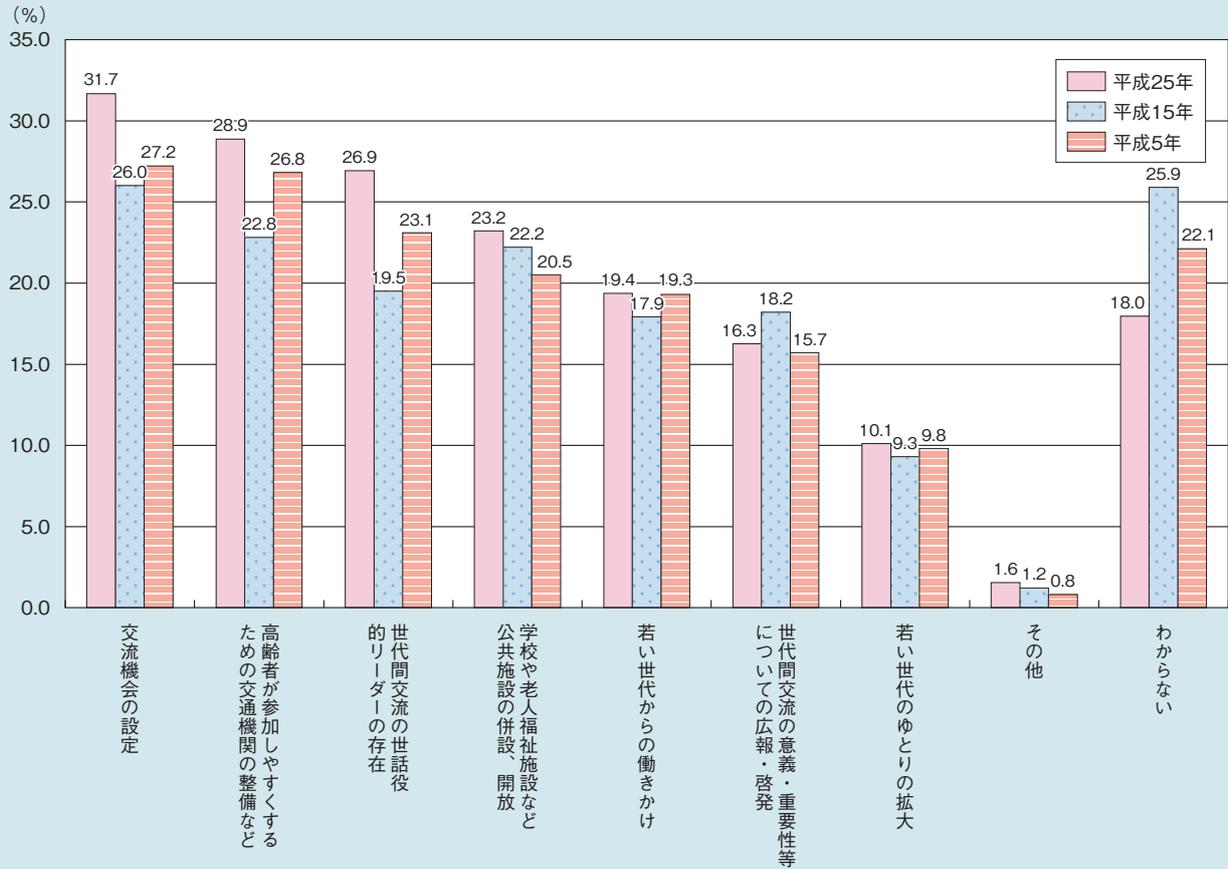
医療機関ネットワーク事業の参画医療機関から国民生活センターに提供された事故情報によると、65歳以上の高齢者が20歳以上65歳未満の人より住宅内での事故発生の割合が高い。事故の発生場所は、「居室」が45.0%と最も多く、「階段」18.7%、「台所・食堂」17.0%が多い（図1-2-6-2）。

図1-2-5-6 若い世代との交流の機会の参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）
（注）調査対象は、全国の60歳以上の男女

図1-2-5-7 高齢者の世代間交流を促進するために必要なこと（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）
 (注1) 調査対象は、全国の60歳以上の男女

図1-2-6-1 住居の状況



資料：総務省統計局「住宅・土地統計調査」（平成25年）
 (注) 主世帯とは、住居と生計を共にしている家族や一戸を構えた単身者の内、同居世帯（1つの住宅に2世帯以上居住している世帯の内、家の持ち主や借り主でない世帯）以外の世帯を指す。